

平成19年度「基礎・基本」定着状況調査結果の分析【国語】

全体的にどの領域から見ても、低い通過率である。広島市の平均通過率と比較して、4.6ポイント下回っている。領域別に見ると、「聞くこと」「読むこと」「言語事項」に比べ「書くこと」に関しては市平均を大幅に下回っている。また、学習に関する調査からは、いろいろなことを意識しながら読む習慣があまりついていないことや、文章自体をあまり読む習慣がないことも分かった。

今後の取り組みとしては、文章を理解しながら何度も読み、「考える」「表現する」という授業形態を定着させ、自分の考えを表現する機会の多い授業を考えていく。学習方法やワークシートなどの工夫にも力を入れていきたい。また、国語力を高めるために、授業で学習したことの復習方法や家庭学習のあり方において、より一層助言や指導を徹底していく必要がある。日常の読書活動においても、読書に親しむ態度を育て、読書生活を豊かにする工夫も考えていきたい。

○「聞くこと」に関して

市平均をやや下回っていたものの「事実と意見を聞き分ける」ことをねらいとした設問においては、市平均より高かった。1年生の時から講演会など、機会あるごとに「メモ」を取りながら話を聞くという活動が続けてきた成果だと考えられる。「聞き取りテスト」や講演会などにおいて、メモを取りながら必要な情報を正確に聞き取る取り組みを今後も継続していく。また、「聞いた情報を分析する」設問の誤答率がかなり高かった。日頃から、相手の意図を考えながら話を聞くことを意識させる必要がある。また、授業の中でも対話などを取り入れることにより、話合いの話題や方向をとらえ、それぞれの発言を注意して聞くことができるように指導をしていく。

○「書くこと」に関して

市平均を5.9ポイント下回っていた。文章全体の構成を考えながら自分の考えを書くことはできているが、原稿用紙の使い方や形式段落の設け方には誤答が多かった。また、作文自体に手をつけない生徒も大変多かった。今後の取り組みとしては、生活ノートの5行日記を毎日書くなど、日頃から「書く」習慣を身につけることから始めていく必要があると思われる。授業においては、「条件作文」などの練習を多く取り入れ、「書くこと」への苦手意識を少なくさせるとともに、自分の考えが効果的に相手に伝わるように書く指導をしていきたい。

○「読むこと」に関して

文学的文章を読むことの方が説明的文章を読むことよりもやや良い傾向にあった。特に文学的文章における登場人物の心情理解は正答率がとても高かった。説明的文章においては、文章の構成や論理の展開を正確にとらえる力がまだ十分身に付いていないと考えられる。段落相互の関係や論の展開をおさえながら、正確に読み取る力を身に付けていきたい。また、読み取ったことを十字以上の字数で説明する設問においては、無回答の生徒が大変多かった。あきらめずに書こうとする意欲や表現力にも課題があると考えられる。今後の取り組みとして文章を理解し、考えたことを表現する学習方法やワークシートなどの工夫が必要と考える。読解力を培うために、日常生活の読書活動にも力を入れていきたい。

○「言語事項」に関して

漢字の読み書きについては、「読み」はほぼ定着している。「書き」についてはばらつきが見られた。通過率の低い漢字は、第5学年の「支える」であった。週1回漢字テストに取り組んでおり、家庭学習が定着している生徒にはその成果が表れてきていると思われる。また、昨年度から取り組んでいる漢字検定も漢字学習の意欲・関心を高めることにつながってきていると思う。今後は、漢字の字形と音訓、用法など丁寧に指導していき、文脈に即して漢字を使用できる力を身に付けていきたい。また、日常生活においても既習の漢字を使用して文章を書くように助言や指導を徹底していきたい。